

からしだね

日々のみことばの黙想と、主日礼拝の準備に……

2026.3.16-3.22

<p>3.16 月曜日</p>	<p>「神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。タベがあり、朝があった。第六の日である。」 (創世記 1:31)</p> <p>●神はこの世界を創造し、それを「極めて良いもの」として愛されました。それは、ユダヤ人であるのか否か、または、クリスチャンであるのか否か、は関係がありません。神の愛はすべての人、すべての存在に向けられています。これに私たちが応答し、信仰を開花させることができるならば、なんと喜ばしいことでしょうか。</p>
<p>3.17 火曜日</p>	<p>「あなたの御言葉は、わたしの道の光、わたしの歩みを照らす灯。」(詩編 119:105)</p> <p>●聖書の中で最も長い章である詩編 119 編。ここで歌われるのは「神の言葉」への全き信頼です。旧約聖書では律法(文字)であった神の言葉は、新約聖書において「イエス・キリスト」ご自身であることが示されました。私たちはたびたび、いや、常に涙の絶えない闇のなかを歩まされるかもしれません。しかし、そこで私たちの唯一の光となるのは、「みことば」なるイエスさま、お一人です。</p>
<p>3.18 水曜日</p>	<p>「心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず常に主を覚えてあなたの道を歩け。そうすれば、主はあなたの道筋をまっすぐにしてください。」(箴言 3:5-6)</p> <p>●AIが発達することで、教育現場で子供たちの学習能力は低下し、記憶力や感受性が失われてゆくと言われます。学生たちは、スマホで調べれば瞬時に答えが出てくる(正誤は定かではありません…) 便利さによって、自分の脳に情報をとどめておくことをしなくなります。そして、自分の意見というものを失ってゆきます。人間がますます「覚えること」「考えること」を放棄する現代社会で私たちはどうすれば主を「信頼」し「覚え」続けることができるでしょうか。</p>

3.19
木曜日

「神の約束は、ことごとくこの方において『然り』となったからです。それで、わたしたちは神をたたえるため、この方を通して『アーメン』と唱えます。」(Ⅱコリント 1:20)

●神の約束とは第一に「律法」を意味します。人間はその歴史の中で律法に対して、「否」と言い続け、不従順の中を歩きました。それは神さまへの「否」でありました。しかし、イエスさまの十字架はその「否」を、「然り」に変える力を持っていたのです。私たちはイエス様の十字架と復活によってはじめて神さまに「然り」と言うことができ、神さまと和解するのです。

3.20
金曜日

「互いに親切にし、憐みの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい。」(エフェソ 4:32)

●イエスさまは主の祈りで「わたしたちが罪あるものを赦したように、わたしたちをも赦してください」と祈りました。自分が赦すことが前提のように感じてしまうかもしれません。ですが、すべての大前提は、神さまがイエスさまによって私たちにプレゼントしてくださった赦しです。この恵みを受けるならば、私たちは「赦し」を他者に与えることができます。

3.21
土曜日

「神は、おくびょうの霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊をわたしたちにくださったのです。」(Ⅱテモテ 1:7)

●最近、宗教学法人に対する風当たりが強くなる中で牧師である自分が「おくびょう」になっていることに気が付きます。「自分の生活はどうなるのだろう」「これからやって行けるのか」信仰を脇に置いている自分にハッとさせられます。神は「おくびょう」ではなく、「力と愛と思慮分別」の霊を与えて下さっていることに堅く立ち返りたいと思います。

3.22
日曜日

「『アバ、父よ、あなたには、できないことはありません。どうか、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください』」(マルコ 14:36)

●私たちの救い主であるイエスさまは確かに苦しみました。また、確かに人となって私たちと同じようになってくださいました。故に、私たちが人生の中でも体験するすべての苦しみや痛みをイエス様はご存じです。弱い人間に共感し、力強く私たちが生きることを望んでくださるキリストの姿に慰めを受け取りたいと思います。